

渡島管内農業の概要

令和元年(2019年)6月 渡島総合振興局産業振興部農務課

1 農業構造

(1) 気候

渡島管内は、平均気温が9.1℃(札幌8.9℃、旭川6.9℃)と道内の中ではやや高めで、日照時間も1,748h(札幌1,740h、旭川1,591h)と長く、降水量も1152mm(札幌1107mm、旭川1042mm)と多い。道内の中では春の雪解けが早く、土壤凍結深度も浅いことから、農耕に適した期間が長い地域である。

(2) 耕地面積

渡島管内の耕地面積は24,200haとなっており、全道の耕地面積の2%であり、平均経営耕地面積も11haと全道平均の半分以下で、振興局別では最も経営規模が小さい地域である。

(3) 農家戸数

農家戸数は、過去20年間で53%減少し、全道平均(48%)を上回る減少となっており、専業別では、兼業農家の減少率が高くなっている。専業農家の占める割合は64%と低く、経営耕地規模別では5ha未満の農家割合が58%と過半を占めている。

(4) 農業就業人口

農業就業人口(販売農家)も過去20年間で半減しており、直近5年でも602人減少し、平成27年では4,040人。農業就業人口に占める65歳以上の割合は46%であり、北海道平均(36%)に比べて10ポイント高い。

■ 渡島の農業構造

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次	
耕地面積	田	ha	6,510	222,200	2.9%	H30
	畑	ha	17,700	922,300	1.9%	H30
	計	ha	24,200	1,145,000	2.1%	H30
経営耕地のある農業経営体数	経営体	1,796	39,620	4.5%	H27	
経営耕地面積	ha	19,774	1,050,451	1.9%	H27	
1経営体当たり経営耕地面積	ha	11.0	26.5	41.5%	H27	
販売農家戸数	戸	1,759	38,086	4.6%	H27	
専業農家	戸	1,121	26,597	4.2%	H27	
第1種兼業農家	戸	322	7,945	4.1%	H27	
第2種兼業農家	戸	316	3,544	8.9%	H27	
農業後継者がいる	戸	565	11,080	5.1%	H27	
農業就業人口	人	4,040	96,557	4.2%	H27	
うち65歳以上	人	1,839	34,745	5.3%	H27	
65歳以上の割合	%	45.5%	36.0%	+9.5 P	H27	
平均年齢	歳	60.8	57.2	+3.6歳	H27	
基幹的農業従事者数	人	3,785	89,228	4.2%	H27	
農業産出額(試算値)	億円	378	12,761	3.0%	H29	
耕種(試算値)	億円	172	5,483	3.1%	H29	
畜産(試算値)	億円	207	7,279	2.8%	H29	

(資料:農林水産統計、農林業センサス)

1経営体当たり経営耕地面積は経営耕地面積÷経営耕地のある農業経営体数で算出

2 農作物の概要

(1) 水稲

平成30年産の水稲面積は2,960ha、単収は471kg/10aで収穫量は14,000t、作況指数は94の「不良」となった。

品種は道南向けの晩生種である「ふっくりんこ」が70%を占め、平成25年産からは減農薬栽培が可能な「きたくりん」の作付けが開始。春先の労力軽減を図るため、湛水・乾田直播栽培もゆっくりと拡大しており、道南の気候を生かした中生品種が栽培されている。また、既存機械を活用した新たな対策として高密度播種による苗箱を減らす取組なども始められた。

(2) 畑作

馬鈴しょが基幹作物であり、平成29年産では畑作物全体の約4割を占める814haが作付けされているものの、年々減少している。平成16年以降は水田転作大豆の奨励に伴い大豆の作付けが拡大してきたが、近年は、小麦やてんさいもやや拡大傾向にある。

(3) 野菜

温暖な気候を生かした野菜生産が盛んで、ビニールハウスやトンネル栽培による端境期出荷が可能な地域でもあり、檜山管内と一緒に「函館育ち」ブランドで広域出荷しており、道内の主要な産地となっている。

特に、にんじんやだいこん、トマト、きゅうりは促成栽培や抑制栽培が可能な産地であり、ねぎ、にら、ほうれんそう等は冬期間の出荷も行われている。

作付面積では、にんじん、かぼちゃ、ねぎ、だいこん、スイートコーンの順に作付面積が大きく、特にねぎは道内の49%を占める主要な産地となっている。他にも多くの施設野菜が栽培されており、特に知内町のには全道シェアの68%を占め、全国でも有数の産地となっている。

(4) 果樹

七飯町で主にりんごを中心に生産されているが、近年は減少傾向にある。また、平成23年から「ぐんま名月」の高規格品を「ななみつき」として商標登録するなどブランド化を図る取組も進められている。森町ではブルーベリー等の希少な作物も栽培されている。

(5) 花き

切花を中心に生産が行われており、特に七飯町は全道一のカーネーション産地となっている。

他にも宿根カスミソウやワレモコウ、アルストロメリア、ソリダコなどは全道でも高いシェアを占めており、多様な種類の花きが栽培されている。

■ 主要農作物の作付面積

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次	
水稲	ha	2,960	104,000	2.8%	H30	
小麦	ha	192	121,400	0.2%	H30	
大豆	ha	507	40,100	1.3%	H30	
そば	ha	230	24,400	0.9%	H30	
てんさい	ha	175	57,300	0.3%	H30	
馬鈴しょ	ha	814	51,300	1.6%	H29	
野菜	にんじん	ha	344	4,649	7.4%	H29
	かぼちゃ	ha	290	5,950	4.9%	H29
	ねぎ	ha	251	509	49.3%	H29
	だいこん	ha	188	2,653	7.1%	H29
	スイートコーン	ha	115	7,191	1.6%	H29
	トマト	ha	80	729	10.9%	H29
	ほうれんそう	ha	78	325	24.2%	H29
	キャベツ	ha	67	919	7.3%	H29
	にら	ha	30	44	67.5%	H29
	えだまめ	ha	27	1,041	2.5%	H29
	かぶ	ha	19	68	27.8%	H29
	きゅうり	ha	18	95	18.6%	H29
	はくさい	ha	17	421	4.1%	H29
	こまつな	ha	11	69	16.6%	H29
みつば	ha	3	12	22.1%	H29	
果樹	りんご	ha	40	519	7.7%	H27
	プルーン	ha	10	129	7.8%	H27
	おうとう	ha	4	497	0.8%	H27
	マルメロ	ha	1	1	100.0%	H27
花き	カーネーション	a	1,362	3,306	41.2%	H28
	宿根カスミソウ	a	330	1,347	24.5%	H28
	ワレモコウ	a	130	563	23.1%	H28
	アルストロメリア	a	196	964	20.3%	H28
	ソリダコ	a	42	218	19.3%	H28
	トルコギキョウ	a	61	2,432	2.5%	H28
	スターチス	a	143	6,476	2.2%	H28
キク	a	36	1,784	2.0%	H28	

(資料:農林水産統計、渡島総合振興局農務課調べ)

3 畜産の概要

(1) 酪農

酪農は、八雲町や長万部町など渡島北部が主要な地域で、生乳の販売額は農協販売額の約22%を占め、野菜に次ぐ基幹品目となっている。

経営規模が小さい農家が多いが、近年は法人化などによる大規模経営も増えてきている。

また、経産牛1頭あたりの平均乳量は8,710kgで、全道平均(9,439kg)に比べ少ない状況。

(2) 肉用牛

肉用牛の飼養戸数は、高齢化・後継者問題を抱えた小規模農家の離農等により減少傾向にある。

肉用牛農家の多くは繁殖経営であり、肥育を行っている農家は少ないが、肥育を行っている場合でも飼養頭数の約9割は乳用種又は交雑種(F1)となっている。

専用種のうち褐毛和種は、地域の特産として「はこだて和牛」ブランドで販売されている。

(3) 養豚

養豚は主に森町・八雲町で営まれており、大規模な企業法人経営が主体となっている。

飼養頭数は、全道の約16%のシェアを占めている。

■ 家畜飼養農家数と頭羽数

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次	
乳用牛	農家数	戸	197	6,022	3.3%	H30
	頭数	頭	15,876	804,944	2.0%	
	戸当たり頭数	頭	80.6	133.7	60.3%	
肉用牛 (繁殖雌牛)	農家数	戸	108	2,073	5.2%	H30
	頭数	頭	3,207	92,990	3.4%	
	戸当たり頭数	頭	29.7	44.9	66.2%	
肉用牛 (肥育牛)	農家数	戸	72	1,654	4.4%	H30
	頭数	頭	16,321	286,555	5.7%	
	戸当たり頭数	頭	226.7	173.2	130.8%	
豚	農家数	戸	24	223	10.8%	H30
	頭数	頭	65,361	404,883	16.1%	
	戸当たり頭数	頭	2,723.4	1,815.6	150.0%	

(資料: 渡島総合振興局農務課調べ)

■ 生乳生産量

区分	単位	渡島(A)	北海道(B)	A/B(%)	年次
生乳生産量	t	48,339	3,963,246	1.2%	H30
経産牛1頭当たり乳量	kg	8,710	9,439	92.3%	H29

(資料: 渡島は渡島総合振興局農務課調べ、北海道は農林水産統計)

(資料: 経産牛1頭当たり乳量は北海道酪農検定検査協会)

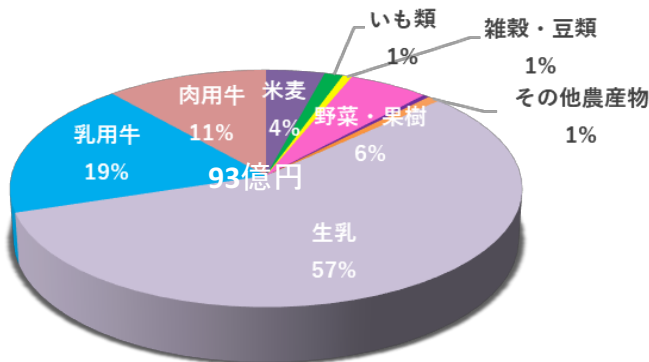
4 渡島地域の特徴

■ 農業算出額(試算)(平成29年)

渡島管内は、南北に長く、気象や立地条件が異なることから、地域によって特色ある農業が展開されている。

渡島北部

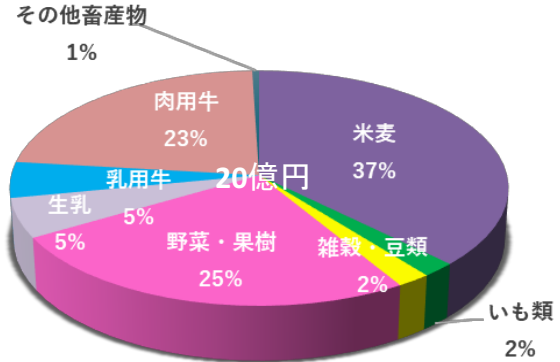
(八雲町、長万部町)



酪農の占める割合が高いほか、肉用牛の飼育など畜産が主体。八雲町南部は、水稻(もち米)や軟白長ねぎ、カスミノウなどを栽培。

渡島南西部

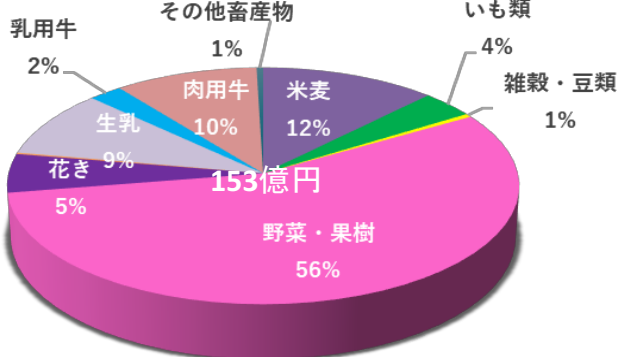
(松前町、福島町、知内町、木古内町)



知内産ニラはブランドが確立され、近隣の木古内町にも野菜生産が波及。福島町は、黒米やそばを栽培。松前町は、黒毛和牛を繁殖。木古内町は、褐毛和牛を繁殖・肥育。

渡島中央部

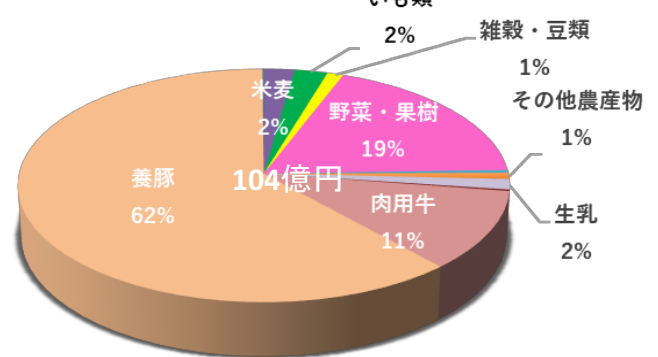
(函館市、北斗市、七飯町)



トマト、きゅうり、ねぎ、にんじんなどの野菜の生産が盛んなほか、カーネーションなどの花き、果樹、米など耕種部門を中心に多様な作物を生産。七飯町大沼地区は、酪農や肉用牛など畜産が盛ん。

渡島駒ヶ岳

(森町、鹿部町)



森町は、養豚が盛んで、野菜や畑作物を栽培。濁川地区では、地熱や温泉熱を利用したトマト、きゅうりなどを冬期間も栽培。駒ヶ岳地区は、かぼちゃなどを栽培。鹿部町は、肉用牛を肥育。